



21世紀の四半世紀から 次の四半世紀に向けて

小瀬 博之
HIROYUKI KOSE

((一社) 建築設備技術者協会 会長, 東洋大学 教授)

あけましておめでとうございます。

旧年中は本協会の運営に関して本部・支部の役員や職員に多大なご尽力をいただきました。また、会員の方々にも委員会や行事への参加等を通じて本協会の活性化にご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

早いもので、21世紀が始まってから四半世紀となりました。さらに四半世紀後の2050年には、日本が目指している温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル、脱炭素の時代となります。建築物の寿命を考えると、建築物におけるカーボンニュートラルの達成は待ったなしの状況であり、2030年の新築される住宅・建築物についてZEH・ZEB基準の水準の省エネ性能が確保されるための重要な5年間となります。本協会では、2021年に「技術系WG-JABMEE TECH WGs」を立ち上げて、建築環境／設備分野の8つの重要課題（ZEB, BCP, 健康, スマートコミュニティ, ICT, BIM, 建築ストック, シミュレーション）にメンバーが集い、2030年、そしてその先の持続可能な社会に向けて調査や情報発信を行っています。

また、4月にはすべての建築物における省エネルギー基準適合義務化が実施され、義務基準の引き上げなどの施策も順次実施されます。省エネルギーの徹底のための建築設備技術者の役割と期待はますます大きくなり、研鑽も求められます。本協会としては、協会誌「建築設備士」での情報提供や講習会・研修会の開催、オンラインサービスである「JABMEEナレッジマップ」や「ZEBデータベース」、そして2023年に始まった賛助会員企業の製品・技術・サービス等の紹介

とそれに関連した基礎技術について若手技術者が学べる「JABMEE TEC」など、さまざまな形で建築設備技術者の資質向上の機会を提供いたします。

昨年の建築設備士試験は、受験者数と合格者数ともに過去最多となり、ここ5年を見ても増加傾向にあります。これは建築設備士の資格の必要性が高まっていることの現れであると言え、登録機関である本協会としてとても喜ばしいことです。一方で、建築設備士になられた方々の正会員への入会者がとても少ないことが大きな課題です。上記の各種サービスを楽しむためには正会員になっていただくことが最適ですので、役員を始めとする会員のみなさまには、正会員になられていない建築設備士の方々に入会を働きかけていただき、会員の増強にご協力ください。

昨年の4月から建設業における時間外労働の上限規制の適用が開始されました。これにより、建設業の労働時間は大きく減少しているものの、全産業と比べてまだ労働時間が多い状態が続いています。また、労働者数が増えない限り、全体としての総労働時間が減少し、人員の確保ができずに受注ができなかったり工期が遅れたりしています。昨年11月18日の建築設備士の日記念鼎談では、「建築設備技術者の働き方」をテーマとして取り上げました。本協会のホームページでもご覧いただけますのでぜひお読みください。

本協会では2016年に公開し、2022年に改訂された「JABMEE VISION 2030」を推進することで、種々の課題に建築設備を専門とする立場から取り組んでおります。本年も、会員を始めとするみなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。